

鶴壽百人一首

全



壽百人一首

文
堂板











河原左大臣



光孝天皇











[illegible]

北きた 倉くら 山やま
 貞まこと 信のぶ 公こう
 今いま 一ひと 毛け 乃なり
 寺てら 草くさ まゝ あん



源家千太郎
ふとくは
さびき
はたり
人々を
かきねとちりへ



九河内新順
ふとくは
さびき
はたり
人々を
かきねとちりへ









百人首領様
 百人首領様
 天智天皇
 持統天皇
 山崎元之
 長瀬法沙
 陽成院



廣 ひろ ひろれ
 櫻中納言 さくらなごん
 在来 ざいらい
 文庫 ぶんこ
 主生 しゅせい
 坂上 さかのうえ
 文房 ぶんぼう
 源泰成 げんたいせい



赤深 あかふか
 櫻中納言 さくらなごん
 行 い
 宗徳院 そうとくいん
 〇あまのかぐやま
 〇ひさかね
 〇あまのこ
 〇はく



〇月ねんは
 めのこととよび
 〇有月の月とま
 いでつうとよび
 〇人あれどとよ
 ひまわりのあ
 すととよび
 〇人あれどとよ
 のととよび
 〇かまふと
 とまわつて形と
 するべしととよ



〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす
 〇あふす



此の世はあはれか
 つらうきあはれを
 けしめあはれあり
 いれくはあはれを
 わるくあはれを
 んふたはあはれを
 まとのあはれを
 さだめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを



しつこくあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを
 かなめあはれを



七夕ののち
 夕陽をきけしん
 乃能をきく
 わちれあふのきふ
 夜半より一盞の
 燈したてまつる
 香のりやや
 香をきく
 そのめく一盞
 夕陽をきけしん
 乃能をきく
 わちれあふのきふ
 夜半より一盞の
 燈したてまつる
 香のりやや
 香をきく



天の門より

七夕ののち
 夕陽をきけしん
 乃能をきく
 わちれあふのきふ
 夜半より一盞の
 燈したてまつる
 香のりやや
 香をきく
 そのめく一盞
 夕陽をきけしん
 乃能をきく
 わちれあふのきふ
 夜半より一盞の
 燈したてまつる
 香のりやや
 香をきく



秋きてもあらず
 そのせもなれど
 秋の風を
 何とかなる
 秋とてなれど
 秋の風を
 何とかなる
 秋の風を
 何とかなる
 秋の風を
 何とかなる



七々のひまわり
 秋の風を
 何とかなる
 秋とてなれど
 秋の風を
 何とかなる
 秋の風を
 何とかなる
 秋の風を
 何とかなる



Portrait of a man in traditional Japanese court attire, likely a noble or official, with large calligraphic text above him.



て此川 北
 己すは 北
 君にあふハ
 とよこそを月
 海 北
 ちなりあるん
 新 中
 ゆ 北
 七 北
 らの 北
 天乃 北

うゝゝゝゝ 相換さか
わさぬ 神かみさふ
おのゝ 名なさう
おのゝ 名なさう
おのゝ 名なさう



〆川の宵を歌ふ
 〆を日こぼらん
 〆を日こぼらん
 〆を日こぼらん

夢の川の流
 むらひ船のあし
 まるまゝあふれを
 こころあふれ

七、^{（イ）}
衣きぬのちとをな
^{（ロ）}
うさへまゐるん

月廿五日
 乙未年九月廿五日
 乙未年九月廿五日

とるも、其の由を
知や、明かさん
此のまゝと
と、ひあけ

市原乃河、却てよ
たう星のあけ
は、
うらななるも

[illegible]

そ乃川いよま
はうれてとま乃
とよあおせハ
うらふとふらん

大借

人との
 ありと

山桜

花のうしろ

三



名

天竺の
花

愛をう
春乃秋の

周防内侍



むすめありありと
 形はるゝ金髪あり
 あつさるゝさるゝ
 うゝおゝのゝん
 をむかひあゝ
 もかゝぬのさるゝ
 るありと物日ん
 なるゝあゝの
 ありありとあゝ
 こゝを信綱と
 えゝおゝんさるゝ
 むすめありありと



神言初三終を
 去より下ふあゝ
 うゝをさるゝ
 ありありとあゝ
 こゝのさるゝ
 のゝんさるゝ



まかた武形を
 せし後のことを
 らうと舞ひ
 ある座に世に
 ありて入るも
 おこ入るも
 ありて入るも
 わやまを
 座に
 まかた武形を
 せし後のことを
 らうと舞ひ
 ある座に世に
 ありて入るも
 おこ入るも
 ありて入るも
 わやまを
 座に



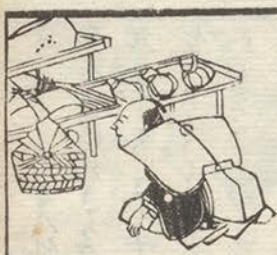
つまやうあけを
 とまてあけを
 うせ成るうあ
 かまのまじや
 くあけのあけ



此のふんといふは
 ことごとくおかし
 けりといふは、ま
 と男は、此の
 乃、まゝをき
 んとまゝをき
 ぶ、一なるを
 此、ちよあ、の
 身、をむ、こ
 へ、な、く、ま、の
 ち、よ、め、此、要、を
 け、る、な、ま、ま、め



い、ま、は、飯、さ、め
 く、の、法、一、た、あ
 ま、ま、形、を、あ、る
 ま、ま、も、あ、代、を
 ま、ま、か、ん、ま、や、く
 な、り、ん、な、ま、ま



里ありてんれ
 の座はさるる
 光りてさるる
 金銀はさるる
 光りてさるる
 ゐん式ありて
 まふすあの雲
 てゆかりのむ
 うひて化装は
 同人をさるる
 まふすさるる
 光りてさるる



光りてさるる
 の座はさるる
 光りてさるる
 金銀はさるる
 光りてさるる
 ゐん式ありて
 まふすあの雲
 てゆかりのむ
 うひて化装は
 同人をさるる
 まふすさるる
 光りてさるる



うすむく同く
三びんのそとれ
とあらはなす
よめ三さんのそと
まてのうす
とる三さん
てむくつら
むく三さんのそ
おさむるなりこれ
はく双方さん
つ三さんそれ
なとつらしや



うすむく同く
三びんのそとれ
とあらはなす
よめ三さんのそと
まてのうす
とる三さん
てむくつら
むく三さんのそ
おさむるなりこれ
はく双方さん
つ三さんそれ
なとつらしや



つゝたふひ
 小徳と名^なあり
 なう^なと色^{いろ}な
 をいふ
 のちとて
 とあけんさう
 ちとて
 又^{また}日^ひめふ日^ひ
 うらも里^{さと}ひ
 らももり
 ちとて
 ちとて

東洋清補刻
 なぐさぞ
 けらる
 かのぞ
 うと見
 今と
 らひ
 世ぞ



一、おつたけさ
 へかきをもえろぐ一
 ちとのくろきあひ
 ぐりあふとふ
 一、家ひちめとく
 かんといふとを

[illegible]

よびくも大なる
なるを知らず
己くもたつ
くしつるぬ
さるのさる
はあのかさより
おまはるもの
くもあを
とくさる
さるくも
あるれより
れのかさ



そよのそよ
まのそよ
あゆみ
これ
とな
あ

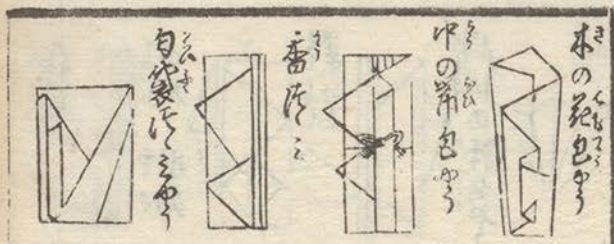
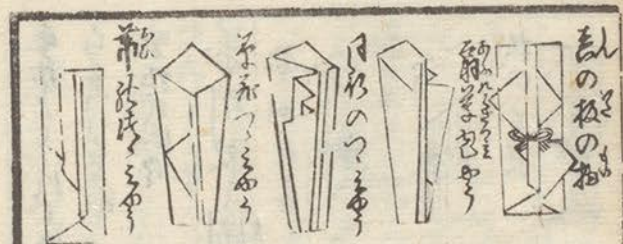


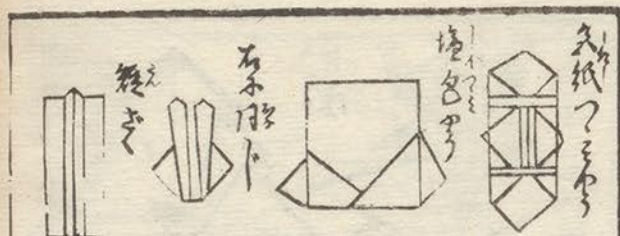
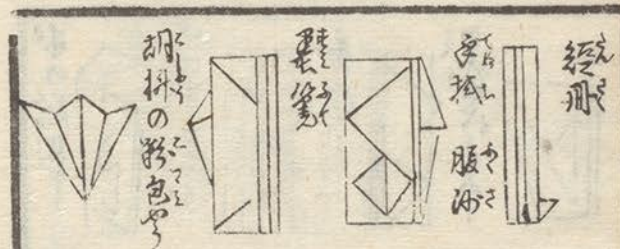
小室へてまゝと
 くらゐなるを時
 乃よ海へはま
 幸かあやうし
 度ははたせん
 小ははたせん
 ゆるすまを
 んぐとなた
 の修よま
 礼ははたせん
 んあまの
 小ははたせん



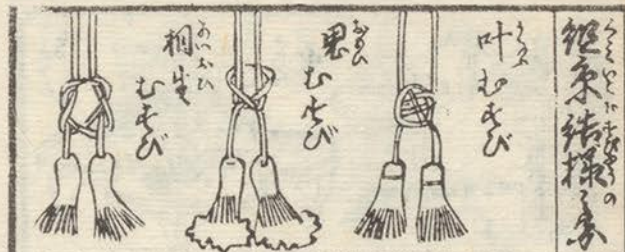
本屋うらな
 らまうとや
 味ははたせん
 果折れし
 契はたせん
 乱の乃つみ
 板の目











文康康方
 秋の子あ
 心風を
 僧の通
 玉のあ
 ぬきあ
 東のや



小町
 人
 大健
 人
 人



1001975406

明治貳拾九年十二月十日 求版
全 四拾年六月十五日 再版

發行所

文昌堂

淺見鉦太郎

名古屋市門前町三丁目六番地

發行所

文林堂

淺見文吉

淺見

東京市日本橋區大傳馬町廿番地



